

レトルト販売が年6万個に伸長

事業10周年、店舗と両輪で普及加速

呉海自カレー事業者部会（内野静男会長）は、主な収益源であるレトルトカレー販売を発足当初の10種類から20種類に増やし、2023年度は年間販売6万個に拡大した。店舗の乗客とレトルトとの両輪で呉海自カレーの普及を加速しており、ネット販売や卸先の開拓に注力し、30年までにレトルト10万個の販売を目指す。

呉海自カレーは、海上自衛隊・呉基地に所属する艦艇などで食べられているカレーの味を呉市内の飲食店が忠実に再現し、観光振興につなげる取り組みで、24年度で事業化10周年を迎えた。今年度は居酒屋利根本店の「護衛艦とね特製ビーフカレー」など22店舗が加盟する。多くの提供店が価格1000円から設定する中、レトルトは原材料などを工夫し、700円で販売。海自カレーのレトルト化は呉が初めてで、これに倣い横須賀や佐世保などにも広まった。提供店舗のほか、大和ミュージアムなどの観光施設やアマゾンなどのネット販売に加え、呉・広島市内のスーパーでも取り扱いはある。

広島フードフェスティバルをはじめ、よこすかカレーフェスティバルなど、呉海自カレー提供店舗が交代で県内外のイベントにも積極出店している。

10月14日には加盟全店舗が出店する「呉海自カレー・呉グルメフェスタ2024」が海上自衛隊呉基地係船堀地区（呉市昭和町5-1-2）である。10周年を記念した写生・絵画コンクールなどの作品展示に加え、通常の「呉海自カレー」のほか、4種類の呉海自カレーをチケット制で食

べ比でできる「呉海自カレーバイキング」などを用意する。テレビ番組「西村キャンプ場」出演のお笑いコンビ、バイきんぐの西村瑞樹さんのトークショーや、艦艇一般公開なども実施。同事業者部会は25年2月から予定されている大和ミュージアムの改修・休館を見据え、新たな観光振興策などを思案する。

広銀のシンガポール法人 チャーン店の日本進出支援

広島銀行のシンガポール法人ヒロギン・グローバル・コンサルティング（大西弘城社長）は、現地でテイクアウト型チャーン店を展開する「ウォック・ヘイ」の日本進出を支援する包括契約を結んだ。

ウォック・ヘイはシンガポールのベンチャー企業。デジタル技術を活用したビジネスモデルで、同国内39店を運営するほか、国外へ事業を拡大している。広島県に日本第1号店を出すための支援で合意した。パートナーとしてラーメン店ばり嗎など運営のウイズリンク（安佐南区）を選定し、フランチャイズ契約締結に向けた交渉をサポート。ウイズリンクはシンガポールにばり嗎を2店展開するなど海外事業を進めている。

広島県は人口の年代構成、世帯当たりの消費支出額、物価などの面で平均的な「日本の縮図」と言われ、テストマーケティングに適するとされる。ヒロギン・グローバル社は、この特性を生かした出店戦略立案をサポートし、グループのネットワークを通じて県内の出店候補物件を調べる。

村上農園、小児がん啓発
（発芽野菜）
広島城をライトアップ
生産で全国トップの村上農園（佐伯区）は、世界小児がん啓発月間に行われる「グローバルゴールドセブテンパークキャンペーン」に協賛し、9月11

17日の日没から午後10時まで広島城が金色にライトアップされる11前年の風景。



同月間には各国で地域の象徴的な建物や遺跡などがライトアップされる。国内では日本小児がん研究グループが2021年にスタート。村上農園は、がん予防に有用とされる成分「スルフォラファン」の含有量を大幅に高めたプロッコリースーパープラウトを生産する縁で、初年度から協賛している。初日の点灯式では、広島大学病院に入院する小児がん患者にオンラインでライントアップの様子を見てもらうほか、同大 学出身バイオリン奏者の後藤明子さんが施設内で生演奏する。

▽**広島銀行**は機械器具・工具卸売業の藤田工業（南区出島2-14-17、藤田省蔵社長）が7月24日に発行した第2回無担保社債1億円（期間5年）を引き受けた。

1946年創業で、「Creative & Support」モノづくりの現場を支える機械・工具商社としての信頼を大切に、未来をクリエイトする」をモットーに、提案型営業で、より多くの情報と他社にないサービスを提供するという。調達金は運転資金に充てる。

タオル・雑貨品
株式会社 ナカカ
〒730-0888
広島センター 082-277-0488

生ぬみび
★ 広島城 ★